

せきぶつさんじぞうどう
石佛山地蔵堂

石佛山地蔵堂 講中代表 高橋隆夫

日頃より石佛山地蔵堂に対しまして、格別のご信心並びにご高配を賜り誠にありがとうございます。

おかげさまで一昨年は、六体地蔵尊建立三〇〇年祭を盛大に執り行う事ができました。これもひとえに地域の皆様方からのご支援、ご協力の賜物と、心より感謝申し上げます。

去る四月十八日、十九日に「春祭り」としての春季例祭を行わせていただきました。ご来賓の方々をはじめ、準備作業からお手伝いをいただきました地元関係者の皆様には、春作業でお忙しい中、ご協力をいただき誠にありがとうございます。重ねて御礼申し上げます。

十八日の宵祭りでは、草餅つき大会、甘酒・こんにやくの振る舞い、講中念仏と供物まきなどを行いました。

年配の方々からは草餅が懐かしく、とても美味しいと、子供たちからはガラポン抽選や供物拾いで楽しそうな歓声があがっていました。

私も子供のころ地蔵様祭りを楽しみに、僅かばかりのこずかいを手に遊びに行つたことを思い出します。

今年度は、地蔵堂の役員体制を一新いたしました。

新体制のもと、こうした伝統行事を大切に、地域の発展と、この原風景が末永く後世に伝えられるよう、講中全員で努力していく考えです。

どうぞ、これからも皆様方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



しょうみようこう
聲明講について

聲明講 講長 小林俊昭

聲明講とは、私たちの集落(姥ヶ山)の中で、家が浄土真宗の人たちが集まって経本を読む練習の会の事を言います。

お経の練習をする講は浄土真宗だけでなく各宗派にも在り、名前もまちまちです(〇〇講など)。

昔は何処の集落にもあったようですが現在ではほとんどなくなつてしまい、ほんの一部の地域に残っているのみであり、現在私たちの集落に残っている事は奇跡としか言いようがありません。

聲明講の「聲」とは、現在は漢字としてほとんど使われることの無い字ですが「声」という字の旧字と思われ、すなわち声を出してお経を読む練習をする人達の集まりであります。

歴史は古く、当地域では一説には大正時代から継続しているとの事です。

しかし先の大戦で一時中止となり、戦後になつて一部の熱心な人の努力によって復活したといわれています。

集落の中で人が亡くなれると、講に入っている人が集まり亡くなられた人にお経を唱えて弔っていたのです。

ある程度の年代の人は覚えていることと思いますが、以前は講に入っている人の家で毎月輪番で行い、終わった後で懇親会を開き親睦を深めていました。そこで親睦を深めることにより、集落としての一体性を保つてきたものと思われまふ。

これからの先人の努力を継承していくと共に集落の一体性を保つための努力をしていきたいと思っております。

しかし、復活当時には六十名近くいた講員も現在では二十八名までに減つてしまい、今後は講の存続と講員の増員に努力しなければならぬと思います。

諏訪社からの御礼と報告

姥ヶ山氏子会 会長 青木 正

姥ヶ山諏訪社氏子会の皆様、姥ヶ山自治会並びに地域の皆様には、いつも温かいご協力ご理解を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年の大祭の時に奉納幟の傷みが酷く、新しく作り替える必要を感じたため、役員会で幟の奉納を募ることを決定し、皆様に募集を致したところ、大変多くの皆様からお申し込み頂きました。現在当神社の幟は二十二本ですが、申し込み数は四十人と倍近い申し込みを頂きました。大変ありがたく厚く御礼申し上げます。

しかし幟を四十本も立てるのも大変なこと、杭や竹竿の数、場所、労力等を鑑みた結果、二十を超えた分は当神社の戸の修復に当てさせて頂くこと、申し込みされた方々に個別に意向を伺ったところ、快く承諾を頂きました。

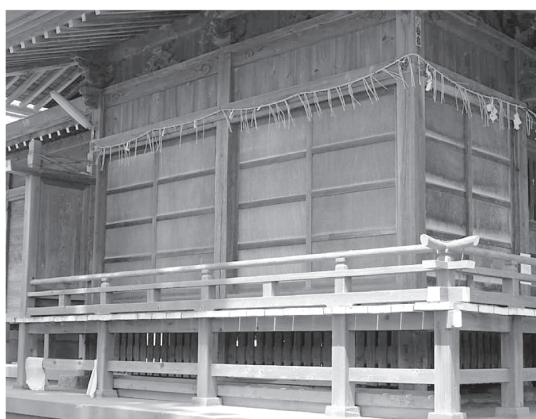
現在、二十一本の幟を発注し、残りの二十一本の志は正面並びに東西の戸の入替に充てようと思っております。

正面戸は賽銭泥棒との戦いで大変傷んでおり、東西の戸も表面が剥がれかけておりますので、この際、皆様の温かいご理解を得て、戸の取り換えに充てることといたしました。

この度の幟奉納の協力要請に、皆様方の温かいご厚情にただただ頭が下がる思いです。

今年の大祭までには、新しくなった幟と戸で、綺麗になった神社に様変わりいたします。

これからも、神社の維持管理に氏子総代・役員一同努めてまいりますので、よろしくご協力お願いいたします。



損傷が著しい神社の戸